2026 年 1 月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジアータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

サンチアゴ市内は夏のクリスマスを終えて新年を迎え、最高気温は 34-35 度の早い真夏日が続いており、地球温暖化現象が確実に現れています。
今年も 2 月末までは森林火災のシーズンになってきました。
昨年 12 月 14 日に実施された大統領決選選挙は、ホセ・アントニオ・カスト（右派）が 60%近い投票で、ジャネット・ハラ（左派）に勝利しました。3 度目の大統領選挙への挑戦で、現政権のポリッチ（左派）に対する 4 年間の政権運営に国民が不満を表明した結果になりました。南米では親トランプ派と呼ばれ、アルゼンチンのミレイ大統領と共に今後は米国と更に親密になると思います。今年 3 月にチリ新大統領が誕生します。銅価格は昨年 12 月に過去最高となる 5,85 ドルになりました。中国の買いだけではなく、世界的な投資資金が金、銀、銅市場に流入しています。
為替も今後のチリ経済の回復に期待して、8%近いペソ高ドル安の 900 ペソあたりまでペソがドルに対して買われています。
昨年の経済成長率は年率 2.4%予想で、今年は 3%近くを予想しています。

2. 世界市況

韓国市場は昨年後半より市況が下落傾向にあり、中国向け輸出梱包材の減少が影響をしているようです。しかしチリ全サプライヤーで約 30,000 m3 を毎月コンテナで輸出を継続しています。中近東市場はサウジアラビアを中心に販売は堅調で、2 月より年間 6 回のバルク配船を予定しています。
米国市場向け内装部材市場は金利の低下に伴い、住宅ローン借り入れによる新設住宅やリフォーム市場の伸びが今年は期待されています、
中国市場の回復は遅れており、チリの販売数量回復はまだ厳しい市況が続きそうですので、アラウコ、CMPC の大手 2 社は昨年同様に販売回復の兆しはありません。

3. 日本市場

a) バルク配船スケジュール

昨年 12 月バルク配船（5 番船）は現地を 12 月 22 日にコンセプシオンを出港して、その後、チリ北部で銅コイルを積んでいます。日本へは 2 月に川崎、名古屋、大阪へ寄港します。

2026 年 1 番船は現地 3 月積みとなり、日本入港は 4 月下旬からになる予定で 1 月下旬まで各社と交渉が継続する見込みです。

今年も昨年同様に年間 5 本のバルク船を約 70 日間隔で配船するスケジュールです。

しかしバルク船を継続する為には船運賃が毎船値上がりをしており、今年 1 番船より製材価格の値上げを検討しなければなりません。現行の為替水準では輸入業者の更なるコスト上昇は避けられず、サプライヤーにとっては厳しい選択になりそうです。

b）梱包市況

昨年後半の梱包市場はトランプ関税に伴う前半の市場より回復傾向にあります。

業種により、ラジアータパイン、国産材、合板、LVL を使用する梱包資材の進み分けが各地で進行している市況のようです。

昨年のチリ製材は輸入数量が約 14 万 m3 で NZ 丸太は約 20 万 m3 でチリ、NZ 共に前年比 15%近い減少で過去最低の輸入数量を昨年は更新する見込みです。

全国的に強度のあるラジアータパイン輸入製材に向いている重量梱包材の市況が厳しく、軽量梱包材は国産材との競合が厳しい市況が続いています。

今年のラジアータパイン製材、丸太共に輸入数量は昨年と比較して横ばいが微減を予想しています。特に円安ドル高の為替市場が今後も続くようであれば、輸入材のコストと販売価格が重要になりそうです。

中国向け梱包需要は引き続き弱いですが、日本と中国の関係が高市政権になり悪化をしており、今後の日中関係の進展によっては日中貿易に影響が出ることも考えらます。

国内パレット材市況は杉製材がシエアを拡大しており、北海道カラ松製材は 3 月に向けて値上げを浸透していく見込みです。杉製材業者も製材コストは上昇をしており、今後は仕組み材を中心に値上げを検討する製材業者が出てくる市況になりそうです。

今年も新設住宅着工数の伸びは厳しいと予測されており、建築部材を製材する国産材の製材業者が梱包材をどのくらい製材するか、今年の生産数量を見ていく必要はあります。引き続きユーロ高円安の為替市況が続けば、欧州材、米松等の輸入材コストは国産材より高くなるので、国内のパレット材市況、梱包材市況が堅調であれば、今年もチリ製材が継続的に供給できる市況は続きそうです。

以　上